

事例に学ぶ！ クライアント管理の理想と現実

キヤノンITソリューションズ株式会社
管理本部情報システム部

下原 隆徳

2014年11月14日

Canon

目次

本日のテーマ

キヤノンITソリューションズ 企業概要

情報システム部の役割

はじめに

なぜ、IT資産管理をしなければいけないのか

理想論ですが・・・

キヤノンITソリューションズでの取組状況

ふりかえり

まとめ

おまけ

本日のテーマ

●テーマ

事例に学ぶ！クライアント管理の理想と現実

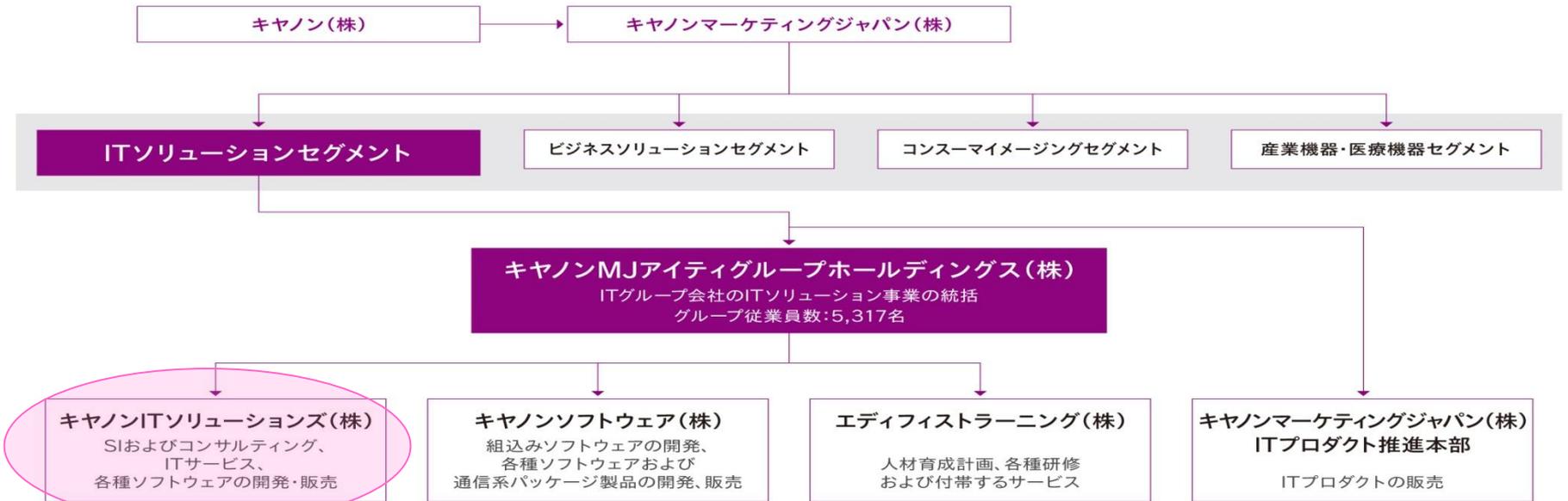
●概要

業務を行う上で必ず利用するPCやアプリケーション。
部署ごとや個人での好き勝手な調達を許していると、IT管理者の
目に届かない端末、いわゆるシャドーITが増えてしまいます。
今回は、とある企業の事例をもとに、多くの企業にも当てはまる
ユーザ任せのPCやライセンスをどのように管理したらよいのかの
理想と現実を、苦労話や工夫した点などを含めてお話をさせていただきます。

キヤノンITソリューションズ 企業概要

| | |
|---------|--|
| 名 称 | キヤノンITソリューションズ株式会社 Canon IT Solutions Inc. |
| 設 立 | 1982年7月1日 |
| 資 本 金 | 3,617百万円 |
| 事 業 | 情報システムのコンサルティング・設計・構築 運用管理・保守サービスの提供、ソフトウェアの開発・販売 |
| 売 上 高 | 81,366百万円（2013年12月期 連結） |
| 株 主 構 成 | キヤノンMJアイティグループホールディングス株式会社 （100%） |
| 従 業 員 | 3,646人（2013年12月末日現在 連結） |
| 関 係 会 社 | 佳能情報系統(上海)有限公司、スーパーストリーム株式会社、 クオリサイトテクノロジーズ株式会社、 キヤノンITSメディカル株式会社、キヤノンビズアテンダ株式会社、イーアンドイー 株式会社、Canon IT Solutions(Thailand) Co.,Ltd.、Material Automation (Thailand) Co., Ltd.、ASAHI-M.A.T. Co., Ltd.、MAT Vietnam Company Limited、Canon Software America, Inc.、 Canon IT Solutions (Philippines), Inc. |

<http://www.canon-its.co.jp/>

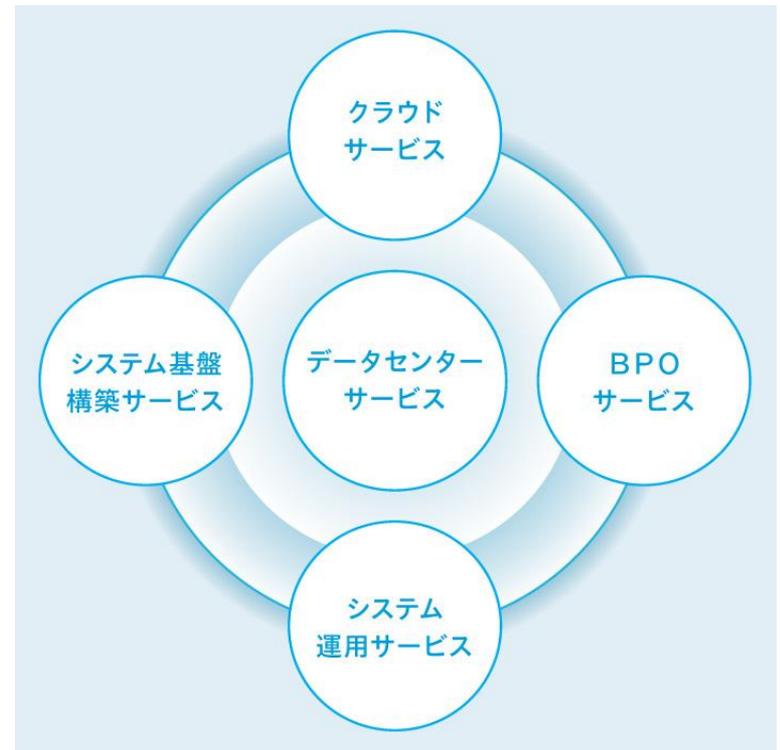


- **キャノンITSメディカル(株)** 医療ヘルスケア分野向けITソリューションの提供、システム開発、ネットワーク、ハードウェア構築
- **キャノンビズアテンダ(株)** BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)、ITO(ITアウトソーシング)、コンタクトセンター、人材派遣
- **スーパーストリーム(株)** 統合業務パッケージ「SuperStream」の企画、開発、販売
- **クオリサイトテクノロジーズ(株)** Javaに特化したシステム開発、データセンターの運営、維持と付帯するサービスの提供
- **エーアンドエー(株)** 3D CADソフトウェア「Vectorworks」の国内独占販売
- **Canon Software America, Inc.** グループ企業向けの各種ビジネスアプリケーションソフトウェア、ドキュメントソリューションの開発
- **佳能信息系统(上海)有限公司** 日系企業やグループ企業向け中心のSIおよびコンサルティング、キャノン製品に関わるソフトウェア製品の開発、販売
- **Canon IT Solutions (Thailand) Co., Ltd.** タイ国内におけるITソリューションの提供
 - **Material Automation(Thailand) Co., Ltd.** ITハードウェアからソフトウェアに関わる提案、販売、サービスの提供
 - **ASAHI-M.A.T. Co., Ltd.** CAD/CAM/CAEの販売、サポート
 - **MAT Vietnam Company Limited** ITハードウェアからソフトウェアに関わる提案、販売、サービスの提供
- **Canon IT Solutions (Philippines), Inc.** フィリピン国内におけるITソリューションの提供

※キャノンMJアイティグループホールディングス(株)の子会社(15社)を記載しています。

※プロダクト事業は、キャノンMJアイティグループホールディングス(株)との連携によりキャノンマーケティングジャパン(株)においても事業を行っています。

ITソリューションの事業領域



次世代型メインサイト
西東京データセンター

東京第一データセンター
東京第二データセンター

東京から約1600km以上
同時被災を回避

ディザスタリカバリーサイト
沖縄データセンター

CSR経営

基本的CSR活動

コンプライアンス、環境保全、
情報保護など、企業が社会的
責任として果たさなければ
ならない基本的取り組み

+

Business with CSR

事業を通じて社会課題の解決や社会価値の創出を
図りながら、経済価値を生み出していく取り組み

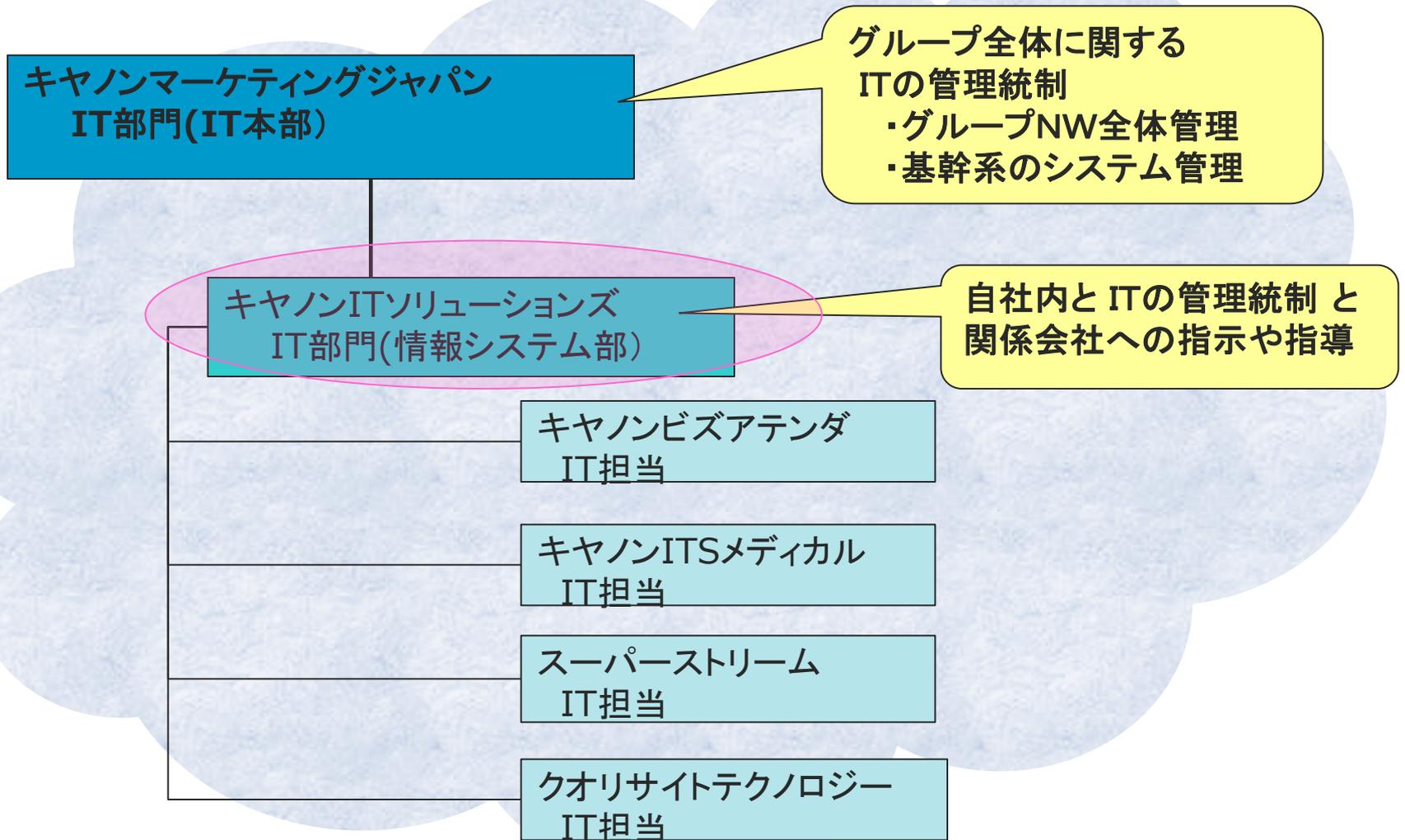


Business with CSR

= 事業活動 × 社会課題



情報システム部の役割



はじめに

例えば……

- ・社内に**PCが何台**あるか把握していますか？
- ・PCの**セキュリティパッチ適用**や**ウイルスパターンファイル更新**は、**確実に**行えていますか？
- ・社内にMs-Officeが**何ライセンス**あるか把握していますか？
- ・さらに、それ**何本利用**されているのか把握していますか？
- ・スマホ・タブレットは、どうなっていますか？
- ・PC(情報端末) やソフトウェアを **購入するときのルール**は……

なぜ、IT資産管理をしなければいけないのか

● 会社資産の有効活用

- ・PCの適材適所の配置（スペック）
- ・不要なPCの廃棄（スペース効率化）
- ・ライセンスの**適正な管理と有効活用**

● リスクの管理

- ・ライセンス違反のリスク

著作権管理団体やソフトウェアメーカーから監査の要望に備えて

- ・セキュリティリスク（主にはウイルスの脅威）

サポート切れのOS（XP）やアプリケーション（MS-Office2003）の対応
パッチ適用、パターンファイル更新、パーソナルFWの設定 etc

理想論ですが・・・

IT資産管理の有るべき姿

- ・どこにどのようなPCが、有るかを即時に把握できる。
- ・そのPCを誰が使っているかが即時に把握できる。
- ・どのPCに**どんなソフトウェアが入っている**か、即時に把握できる。

パッチ適用状況、ウイルスパターンファイル更新状況、パーソナルFW設定
などが確認できると更によい

- ・そのソフトウェアのライセンスが**適正か**どうか、即時に把握できる。

理想論ですが・・・

◎ 本当はこうしたい！！

- ・PCやソフトウェアは、IT部門にて**一括購入**。
- ・必要なソフトウェアをインストールし、各種**台帳の情報**を**更新**の上で、利用者へ渡す。
- ・勝手なPCの仕様変更やソフトウェアの**インストール**は許さない。
- ・**セキュリティパッチ**や**ウイルスパターン**の**タイムリーな更新**。
- ・ネットワークへの**接続状況**や**インベントリ情報**を**タイムリー**収集にて、常に**利用状況**が**把握**できる**仕組み**がある。

理想論ですが・・・

でも、現実には・・・

IT部門は**人材不足！**
IT関連の**予算**も潤沢にある訳では**ない！**

使いたいPCやソフトウェアは、現場によってまちまち。
PCスペックは統一したいものの、すべての要望をかなえられる
ようなPCは、高額になり過ぎて調達は厳しい。

利用者は、**タイムリー**にPCやソフトウェアが欲しい

IT部門の**一括管理のみ**では、**要望**に**応え切れない**。

大きなギャップが有る。

キヤノンITソリューションズ での 取組状況

実際にできていること

◎ 標準PCの決定

・**モバイルでの利用**も考慮し、有る程度の開発にも耐えられる
ノートPC（一機種）を**標準機**として決める。

→外付けディスプレイやキーボード・マウス・テンキーなどの増設は
認める。

→メモリ増設を認める。

→例外は、お客様指定ありのとき、もしくは、グラフィックなどの特殊
なボードの増設を必要とするとき。

台数をまとめることで、**調達コストを最適化**する。
機種が限定されるので、**管理コストが削減**される。
事務部門と開発部隊での**融通が効く**。

実際にできていること

◎ 標準ソフトウェアの決定

- ・全社員が一般的に利用するソフトウェアは、**標準ソフトウェア**としてIT担当部門にて**一括管理**を行う。

例えば Windows CAL
Windows7
MS-Office
VisualStudio etc

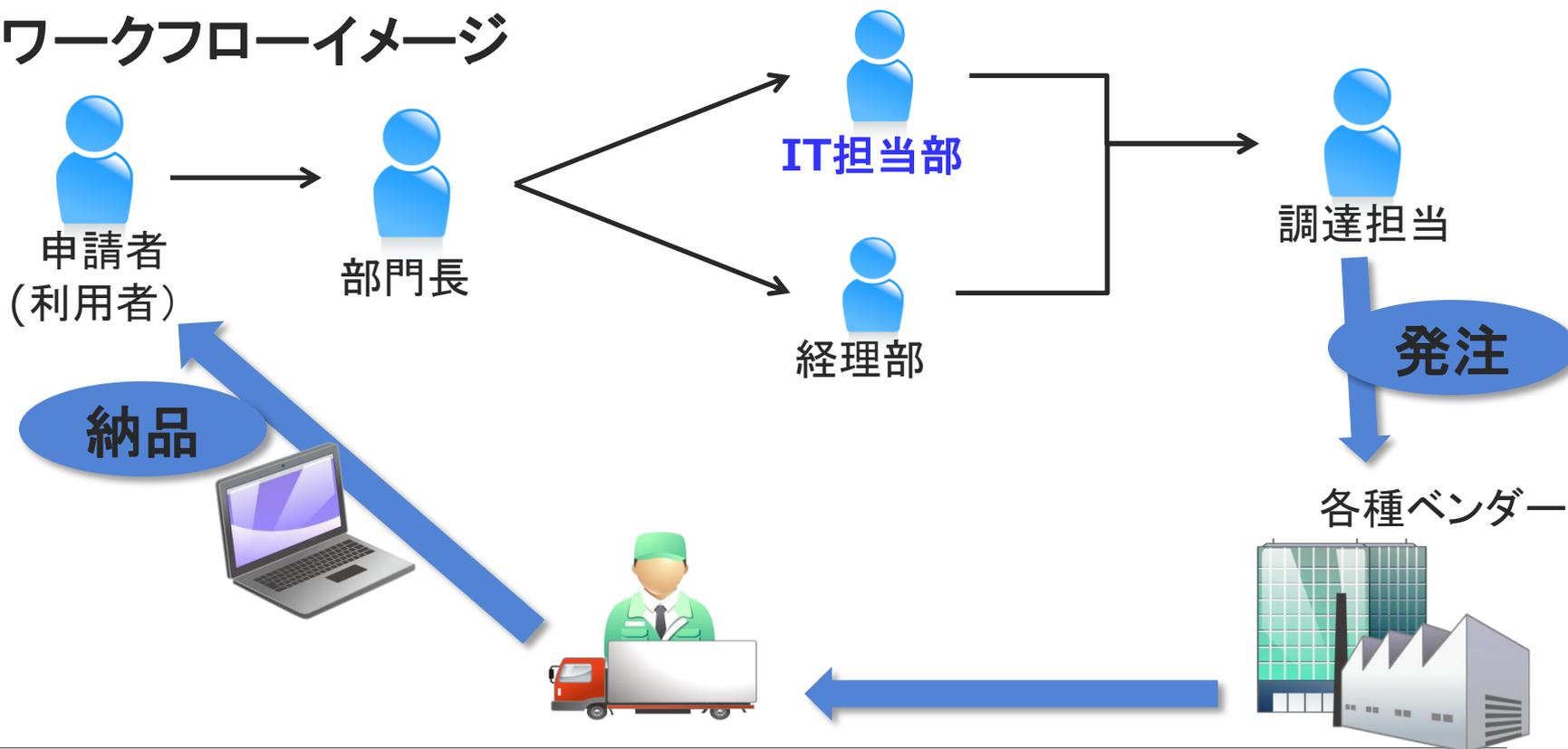
- ・開発部門で必要な**特殊なツール類**は、各部門にて**個別管理**。

実際にできていること

◎ 調達時からIT担当部門でも把握できるようにする。

調達は原則、**集中購買**。PC・ソフトウェア等の調達時はワークフロー申請を、IT部門へも回す。

※ワークフローイメージ

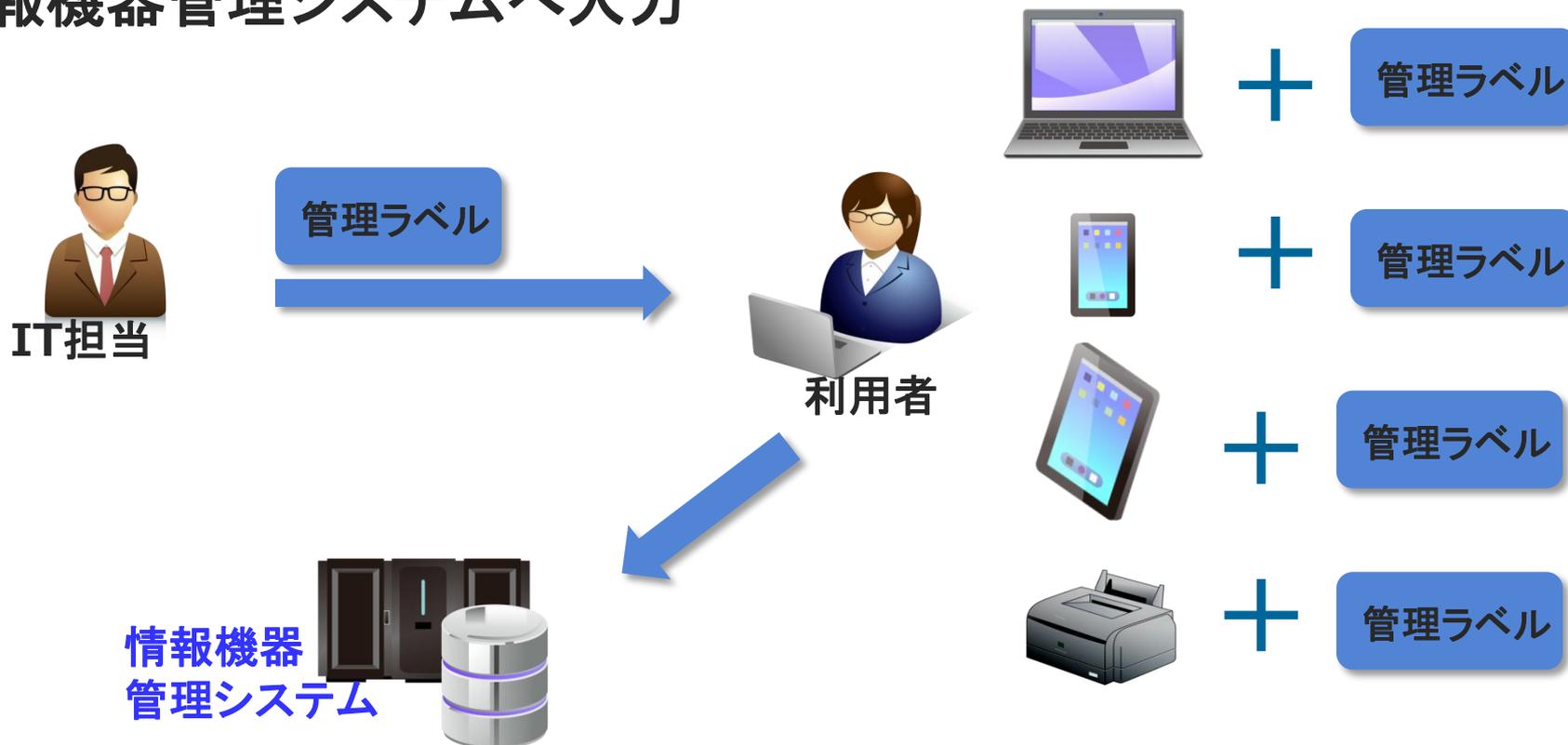


実際にできていること

- ・PC調達時は、先の**標準機で利用できないか**を確認する。
→ モニター、キーボードやメモリ増設で済みそうであれば標準機を使わせる。
- ・ソフトウェアのときは、全社の**共通の標準ソフトウェアで代替えできないか**を確認する。
→ 包括的なライセンスがあれば、その利用を促す。
→ 大量購入した部署が有れば、そこから借用出来ないかなどの仲を取り持つ。

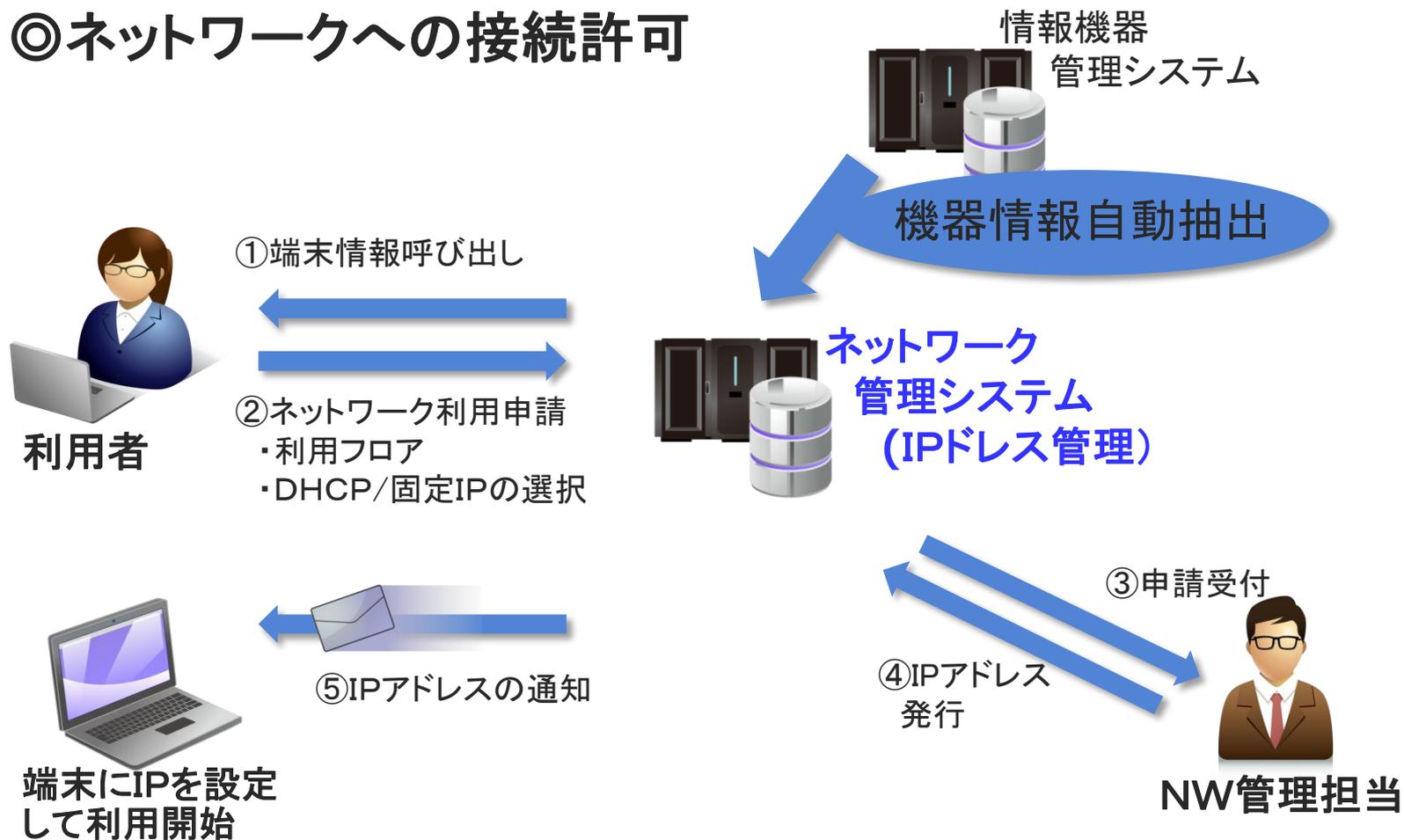
実際にできていること

◎機器へのラベル添付と 情報機器管理システムへ入力



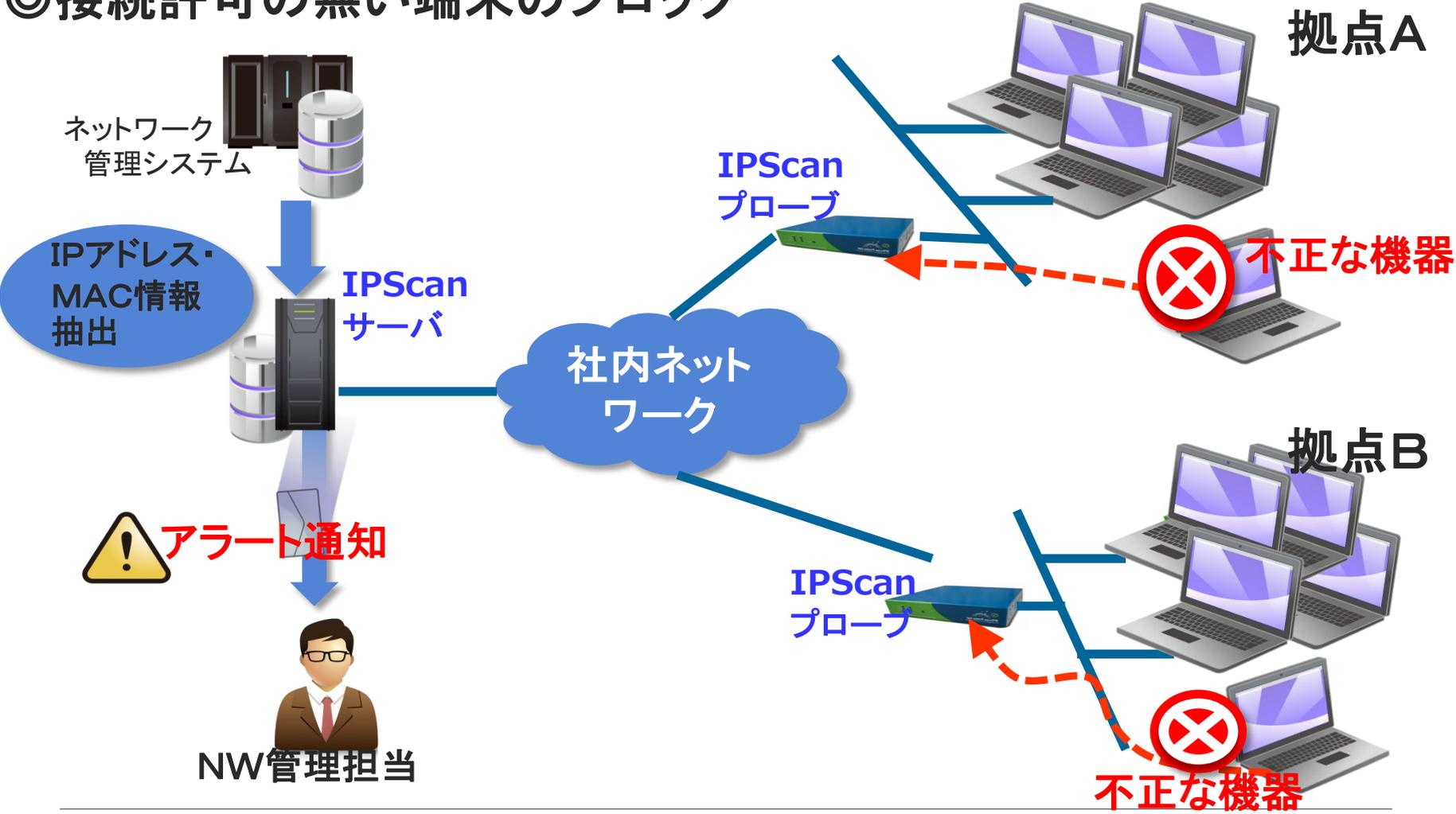
実際にできていること

◎ネットワークへの接続許可



実際にできていること

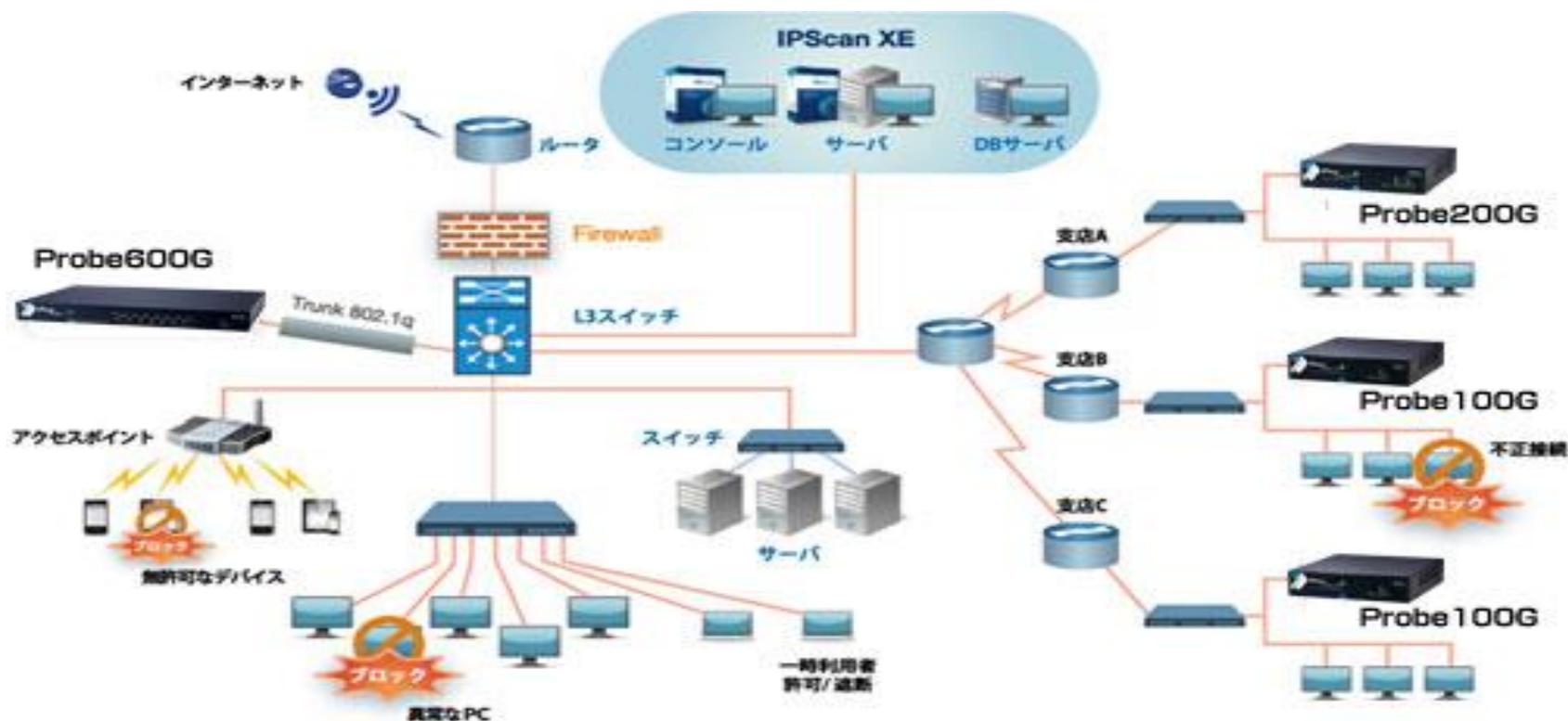
◎接続許可の無い端末のブロック



【参考】IPScanとは

IT機器/PC統合管理、不正デバイス接続検知/アクセスブロックソリューション

IPScanはネットワークに接続されたあらゆるネットワークデバイスを**自動検出し**、**見える化**できます。
 (PC、タブレット、スマートデバイス、ポータブルワイヤレスルータ、プリンタなど)
 また、強力な遮断技術により無許可デバイスからの**不正アクセスをブロック**します。

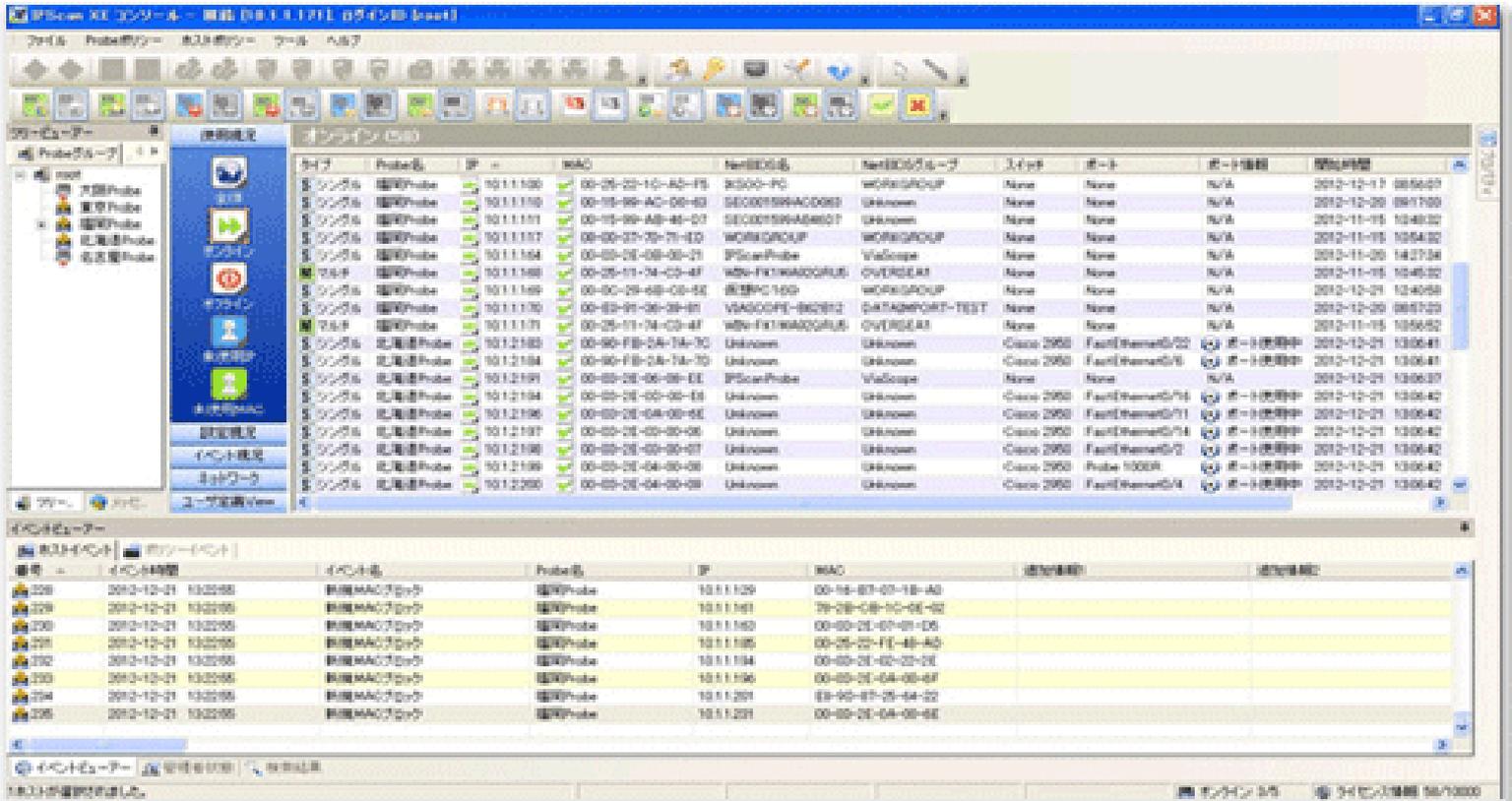


【参考】IPScanとは

IT機器/PCの情報収集と一元管理

IP/MAC/NICベンダ/ホスト名/接続ポート/ネットワーク接続時間をリアルタイムに自動収集、把握・管理することが可能になります。

また、リストには任意のユーザーフィールドを追記することができ、使用者名、ID番号、資産管理番号などをコメントすることで管理の効率化が図れます。



【参考】IPScanとは

▼ 詳しくはWebで

<http://canon-ts.jp/product/ipscan/index.html>

クオリティソフトさんのホームページでもご紹介頂いています

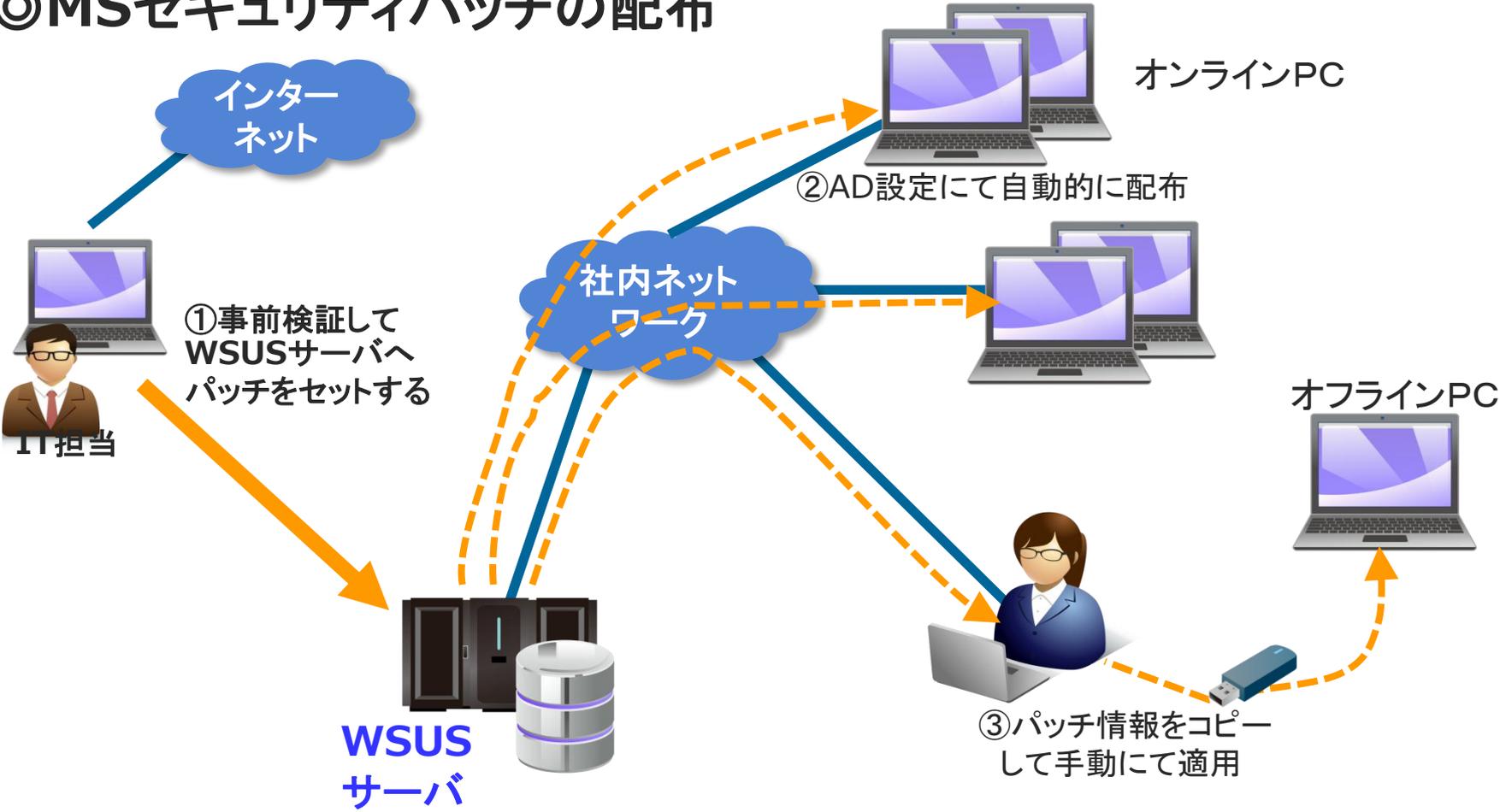
http://www.quality.co.jp/solution/sol_cont/QND_IPScan.html

実際にできていること

- 社内利用のPCは、情報機器管理システムへの登録を社内規程で義務付けている。
- 情報機器管理システムにて、PCの状況を一元管理。
管理ラベルの再利用は絶対に行わない事
- このシステムに登録が無い機器は、基幹ネットワークを利用させない。
- ネットワークの利用状況を監視して、未登録端末を排除していく。
→ シャドーITをあぶり出し、適正化していく。
→ ラベル配付 → システムへ登録 ……

実際にできていること

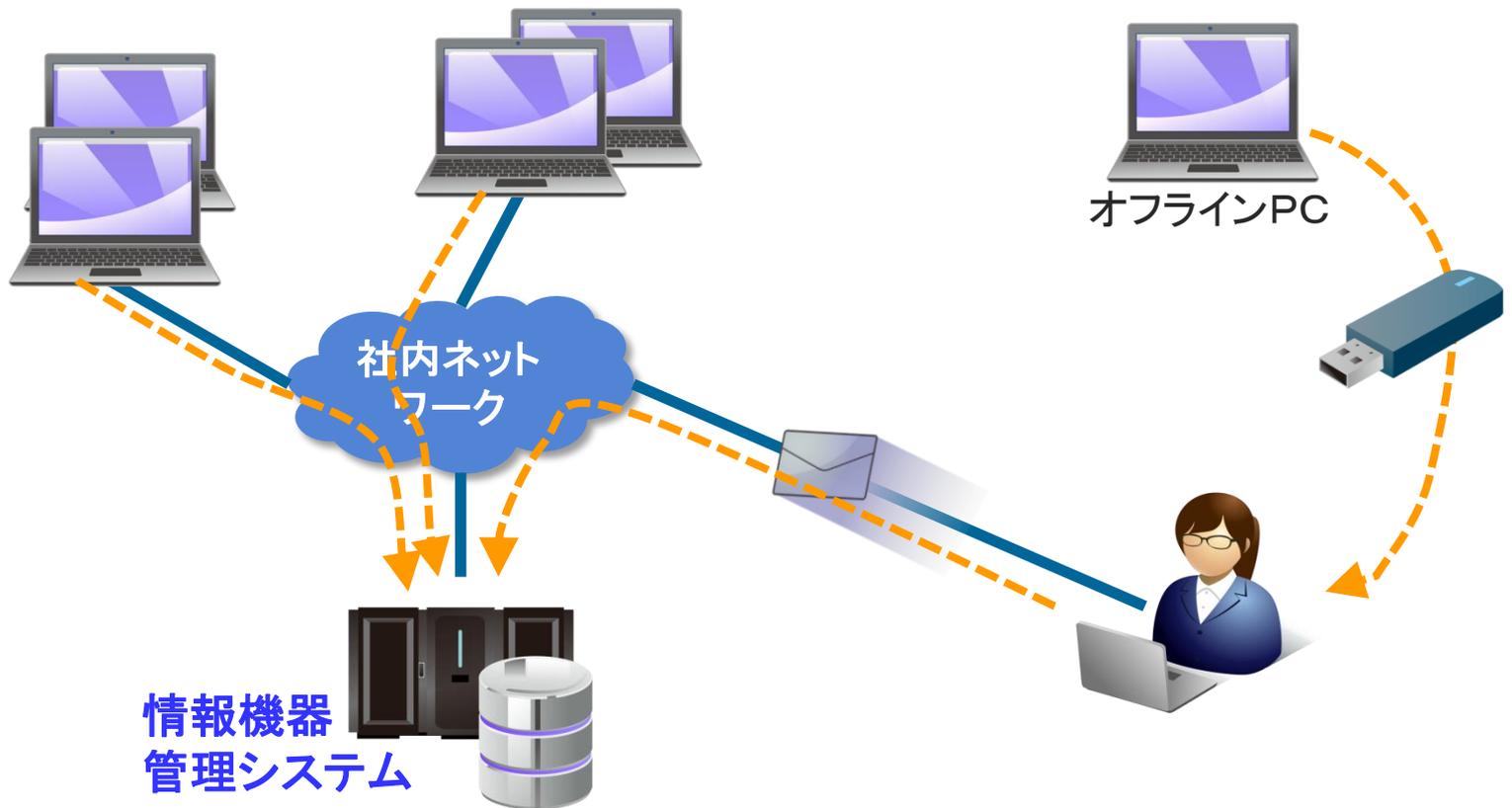
◎MSセキュリティパッチの配布



実際にできていること

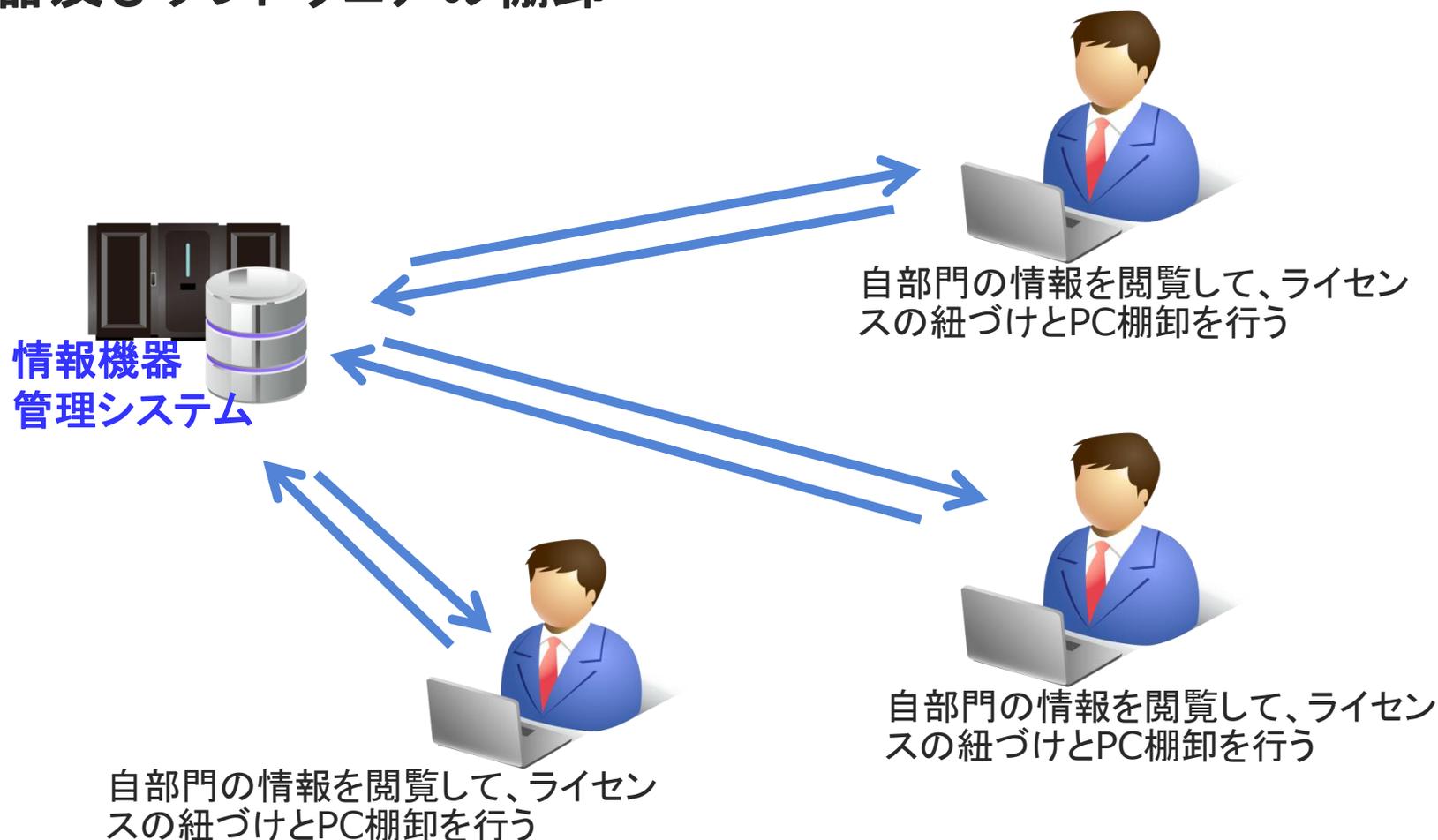
◎インベントリ情報の収集

-----> インベントリ情報の収集



実際にできていること

◎機器及びソフトウェアの棚卸

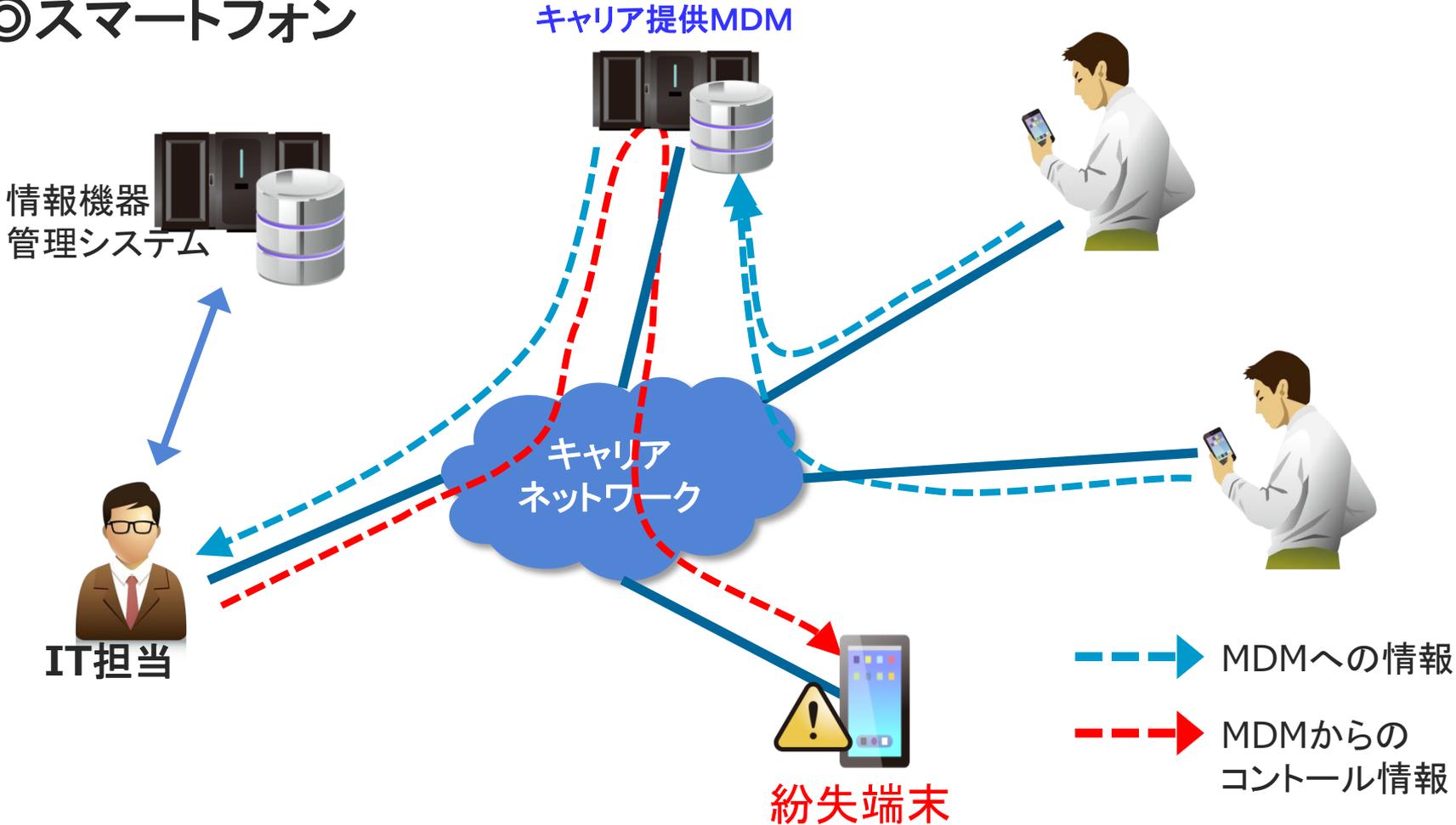


実際にできていること

- オンライン機は、ADに参加(ログオン)時に**自動収集**。
(初回収集時に、管理ラベル番号の入力をさせる)
- 情報機器管理システムの機器情報とインベントリ情報を管理ラベル番号にて紐づけて一元管理。
- 自部門の機器の保有状況やソフトウェアの利用状況が**いつでも閲覧可能**。(現状、ソフトウェアについては一部メーカーのみ)
- インベントリ情報をベースに、ソフトウェアライセンスの割り当が可能。
- **定期的な棚卸**を行う。(現状は年2回)
- オフライン機は、棚卸前にインベントリ収集。

実際にできていること

◎スマートフォン



実際にできていること

- **対象は、社有の業務利用スマートフォンのみ**
 - タブレットについては、業務利用は無く管理対象外。
 - デモや検証用のスマートフォンやタブレット端末も存在するが、管理対象外としている。
- **MDMによる端末設定状況の確認**
- **MDMによる利用禁止アプリのインストール状況の確認**
 - 違反アプリの発見時は、本人に**削除指示**を出して削除させている。
- **MDMによるワイプ**

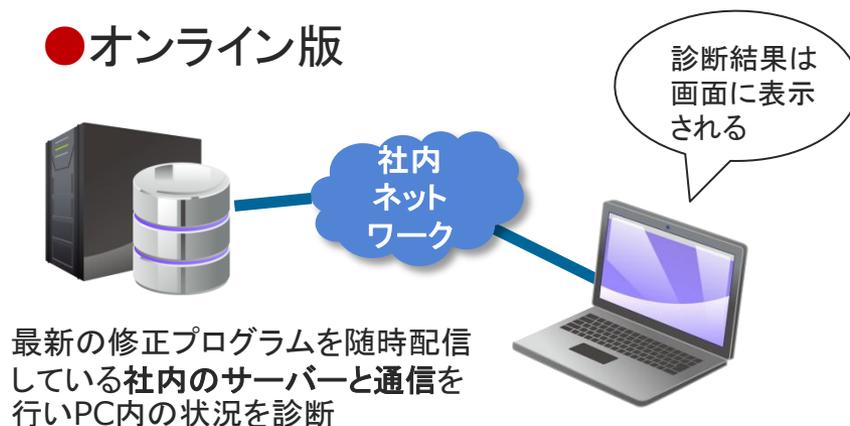
実際にできていること

◎ PCのセキュリティのセルフチェック

オリジナルのチェックツールを用意。ツールを使用することで、
下記の内容を確認できる。

- ・Microsoft修正プログラムの適用状況
- ・スクリーンセーバの設定確認
- ・Adobe Readerのバージョン確認
- ・可搬メディアウイルス対策確認
- ・Internet Explorer 8の設定確認
- ・Outlook 2010の設定確認
- ・Flash Playerのバージョン確認
- ・ESETのバージョン確認

● オンライン版



● オフライン版



ふりかえり

例えば……

・社内にPCが何台あるか把握していますか？

→情報機器管理システムにて、すべて把握。

・PCのセキュリティパッチ適用やウイルスパターンファイル更新は、確実に
行えていますか？

→チェックツールによるセルフチェック。必要時は、インベントリ情報にて確認。

・社内にMs-Officeが何ライセンスあるか把握してますか？

・さらに、それ何本利用されているのか把握してますか？

→情報機器管理システムにて、すべて把握。

ふりかえり

・スマホ・タブレットは、どうなっていますか？

→情報機器管理システムにて端末管理。

不正なアプリのインストール状況は別途MDMにより管理。

(デモや検証用のスマートフォン・タブレットは、MDM管理対象外としている)

・PC(情報端末) やソフトウェアを **購入するときのルール**は・・・

→調達時からIT担当が関与して、出来るだけ標準化させる。

また、利用状況を出来る限り、タイムリーに把握する。

まとめ

- ・管理ツールを上手く使って**効率的**な管理を行う。
- ・人の手作業に頼るところは、**社内規程**として定め、**教育**や**周知徹底**により**習慣付ける事**が必要。
 - ・ラベル添付やシステムへの登録
 - ・オフラインPCのインベントリ収集
- ・ソフトウェアライセンスの**適正利用**も社内での**教育が重要**。



おまけ

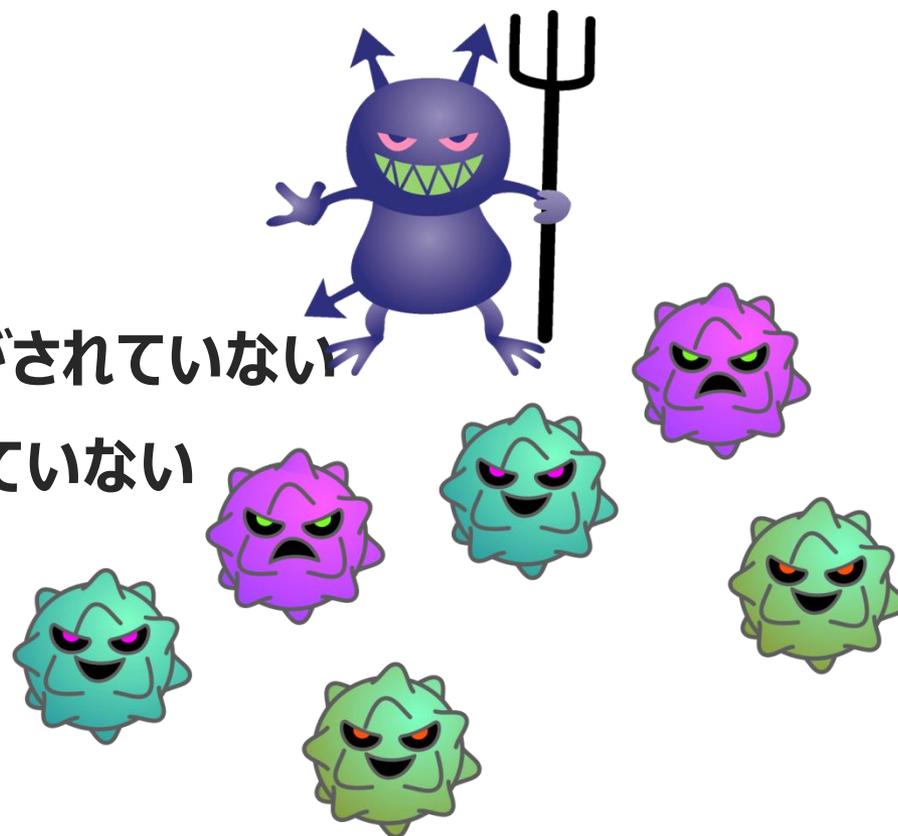
リスクの想像

シーン1：ウイルスが・・・

社内PCに**ウイルスが蔓延**、PCが動かない・・・

業務停止！

- セキュリティパッチの適用がされていない
- ウイルス対策ソフトが入っていない



リスクの想像

シーン2： 違法行為(ライセンス違反)

・・・もし裁判所から、利用差し止め命令が出たら・・・

業務停止！

BSAのニュースサイトに掲載

**2014.10.22 大阪地裁、大阪府所在の中古車買取販売業
を営む会社に証拠保全を実施**

<http://bsa.or.jp/news-and-events/news/bsa20141022/> より

適切な管理がされていないと業務が止まる。

IT資産管理は、BCPの一環でもある。

経営者にリスクを認識してもらい

人：IT担当の人材の確保

物：管理に必要なツール

金：PC購入の費用、ツールの費用、保守費用

の支援を取り付けましょう。

ご清聴ありがとうございました